

北九州工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	化学 A I	
科目基礎情報							
科目番号		0011		科目区分	一般 / 必修		
授業形態				単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科		生産デザイン工学科 (知能ロボットシステムコース)		対象学年	1		
開設期		前期		週時間数	2		
教科書/教材		「化学基礎」文部科学省検定済教科書2東書化基701、小川桂一郎他著、東京書籍, 「ダイナミックワイド図説化学」、竹内敬人編著、東京書籍, 「セミナー化学基礎+ 化学」、第一学習社編集部著、第一学習社					
担当教員		牧野 伸一					
到達目標							
1. 原子の構造、原子番号、質量数について説明できる。 2. モルの概念を理解し、物質質量を使った計算ができる。 3. 化学反応式を反応物、生成物、係数を理解して組み立てることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		原子の構造、原子番号、質量数と、そこから解釈できる元素の性質を説明できる。		原子の構造、原子番号、質量数について説明できる。		原子の構造、原子番号、質量数について説明できない。	
評価項目2		モルの概念を理解し、物質質量を使った計算ができる。		モルの概念を理解し、物質質量について説明できる。		モルの概念を理解できない。	
評価項目3		化学反応式を反応物、生成物、係数を理解して組み立て、物質質量比の計算をすることができる。		化学反応式を反応物、生成物、係数を理解して組み立てることができる。		化学反応式において、反応物、生成物、係数を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		中学校の理科で学んだ知識の上に、より深い視点から物質の構造・性質・反応を学び、単なる暗記ではなく、化学的なものの見方、考え方を身に付けさせるとともに、上の学年で学ぶ専門科目を理解するための基礎学力を養うことを目的とする。					
授業の進め方・方法		教科書に沿って授業を進める。実験を組み入れて座学での理解向上の一助とする。					
注意点		新しい概念や法則等の理解が必要で、習った内容をもとにして次の知識が積み上げられて行くので、常日頃からの復習は必須である。					
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	純物質と混合物、化合物と元素、物質の三態		純物質と混合物の区別ができ、混合物の適切な分離法を選択できる。 単体と化合物の定義と具体例を説明できる。物質の三態と状態変化を、分子・原子レベルの視点で説明できる。		
		2週	炎色反応の実験		指示に従って実験操作を行い、実験結果をレポートにまとめる。		
		3週	原子の構造		原子核の構成や原子番号、質量数の関係を説明できる。		
		4週	電子配置と周期表		原子の電子配置を電子殻で書き表し、価電子と周期表の関係を説明できる。		
		5週	イオン結合、共有結合		イオンの価数を電子配置の安定化の観点から説明できる。イオン結晶の構造を説明できる。共有結合を電子配置の面から解説できる。		
		6週	配位結合、分子間の結合		配位結合と共有結合の共通性と違いを説明できる。分子間に働く力の種類と違いを説明できる。		
		7週	金属結合、化学結合のまとめ		金属の性質を原子レベルで説明できる。 化学結合の観点から物質の性質を説明できる。		
		8週	中間試験		前期前半の内容の理解を問う試験で、大部分を正答することができる。		
	2ndQ	9週	原子量、分子量、式量		物質の質量と、原子量の関係を説明できる。		
		10週	物質質量の実験		アボガドロ定数と物質質量、原子の質量との関係を説明できる。		
		11週	物質質量		アボガドロ定数と物質質量、原子の質量との関係を説明できる。		
		12週	溶液の濃度		質量パーセント濃度、モル濃度に関する計算ができる。		
		13週	化学反応式と量的関係		化学反応式から生成物の量などを計算することができる。		
		14週	物質質量の問題演習		モルを使った計算ができる。		
		15週	復習とまとめ		後半の内容を説明できる。		
		16週	定期試験		物質質量を中心とした内容の理解と実践力を問う試験で、問題の意味を理解し、大部分を正答することができる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	化学(一般)	化学(一般)	物質が原子からできていることを説明できる。	2	前3,前4
				単体と化合物がどのようなものか具体例を挙げて説明できる。	2	前1
				同素体がどのようなものか具体例を挙げて説明できる。	2	前1
				純物質と混合物の区別が説明できる。	2	前1
				混合物の分離法について理解でき、分離操作を行う場合、適切な分離法を選択できる。	2	前1
				物質を構成する分子・原子が常に運動していることが説明できる。	2	前1
				水の状態変化が説明できる。	2	前1
				物質の三態とその状態変化を説明できる。	2	前1
				原子の構造(原子核・陽子・中性子・電子)や原子番号、質量数を説明できる。	2	前3,前4
				同位体について説明できる。	3	前3,前4
				放射性同位体とその代表的な用途について説明できる。	3	前3,前4
				原子の電子配置について電子殻を用い書き表すことができる。	3	前3,前4
				価電子の働きについて説明できる。	3	前3,前4
				原子のイオン化について説明できる。	3	前5
				代表的なイオンを化学式で表すことができる。	3	前5
				原子番号から価電子の数を見積もることができ、価電子から原子の性質について考えることができる。	3	前3,前4
				元素の性質を周期表(周期と族)と周期律から考えることができる。	3	前3,前4
				イオン式とイオンの名称を説明できる。	3	前5
				イオン結合について説明できる。	3	前5
				イオン結合性物質の性質を説明できる。	3	前5
				イオン性結晶がどのようなものか説明できる。	3	前5
				共有結合について説明できる。	3	前5
				構造式や電子式により分子を書き表すことができる。	3	前5
				自由電子と金属結合がどのようなものか説明できる。	3	前7
				金属の性質を説明できる。	3	前7
				原子の相対質量が説明できる。	3	前9,前10
				天然に存在する原子が同位体の混合物であり、その相対質量の平均値として原子量を用いることを説明できる。	2	前9,前10
				アボガドロ定数を理解し、物質量(mol)を用い物質の量を表すことができる。	1	前9,前10,前14
				分子量・式量がどのような意味をもつか説明できる。	1	前9,前10,前14
				気体の体積と物質量の関係を説明できる。	1	前11,前14
				化学反応を反応物、生成物、係数を理解して組み立てることができる。	1	前13
				化学反応を用いて化学量論的な計算ができる。	1	前13
				電離について説明でき、電解質と非電解質の区別ができる。	2	前12
				質量パーセント濃度の説明ができ、質量パーセント濃度の計算ができる。	1	前12
				モル濃度の説明ができ、モル濃度の計算ができる。	1	前12
	工学基礎	化学実験	化学実験	実験の基礎知識(安全防具の使用法、薬品、火気の取り扱い、整理整頓)を持っている。	2	前2,前10
				事故への対処の方法(薬品の付着、引火、火傷、切り傷)を理解し、対応ができる。	2	前2,前10
				測定と測定値の取り扱いができる。	2	前10
				有効数字の概念・測定器具の精度が説明できる。	2	前10
				レポート作成の手順を理解し、レポートを作成できる。	2	前10
				ガラス器具の取り扱いができる。	2	前10
				基本的な実験器具に関して、目的に応じて選択し正しく使うことができる。	2	前10
				試薬の調製ができる。	2	前10
				代表的な気体発生の実験ができる。	2	前10
		工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	物理、化学、情報、工学における基礎的な原理や現象を明らかにするための実験手法、実験手順について説明できる。	1	前2,前10
				実験装置や測定器の操作、及び実験器具・試薬・材料の正しい取扱を身に付け、安全に実験できる。	1	前2,前10
				実験データの分析、誤差解析、有効桁数の評価、整理の仕方、考察の論理性に配慮して実践できる。	1	前2,前10
				実験テーマの目的に沿って実験・測定結果の妥当性など実験データについて論理的な考察ができる。	1	前2,前10
				実験ノートや実験レポートの記載方法に沿ってレポート作成を実践できる。	1	前2,前10
				実験データを適切なグラフや図、表など用いて表現できる。	1	前2,前10
				実験の考察などに必要な文献、参考資料などを収集できる。	1	前2,前10

			実験・実習を安全性や禁止事項など配慮して実践できる。	1	前2,前10
			個人・複数名での実験・実習であっても役割を意識して主体的に取り組むことができる。	1	前2,前10
			共同実験における基本的ルールを把握し、実践できる。	1	前2,前10
			レポートを期限内に提出できるように計画を立て、それを実践できる。	1	前2,前10
評価割合					
		試験	演習・レポート	合計	
総合評価割合		65	35	100	
基礎的能力		65	35	100	
専門的能力		0	0	0	
分野横断的能力		0	0	0	